

【がんと副作用を消す漢方】

【がんと副作用を消す漢方】の複合作用



漢方初! ヒトで臨床試験

2011年に国立台湾大学医学院附属病院（日本の東京大学附属病院に相当）において、【がんと副作用を消す漢方】で漢方薬では初となるヒトを対象とした臨床試験を実施(※)。その結果、QOLの向上、副作用の軽減、免疫機能の向上、腫瘍の縮小などがみられ、80%の対象者が効果を実感、66.7%の対象者が継続服用を希望した。

もちろん、これらの治療が有効ながんには、速やかに活用されなければなりません。しかし、アメリカ国立がん研究所が指摘するような抗がん剤の副作用による免疫力やQOL（生活の質）の低下を考えると、がんの効果があり、副作用を軽減して治療のサポートもできる代替療法を考える必要があるといえます。そこで

生薬の複合作用でがんと副作用を軽減

がん治療と併用できる

がんと副作用を消す漢方



世界20カ国で60万人が服用する
がん治療のつらい副作用を軽くして
がんと副作用を消す漢方

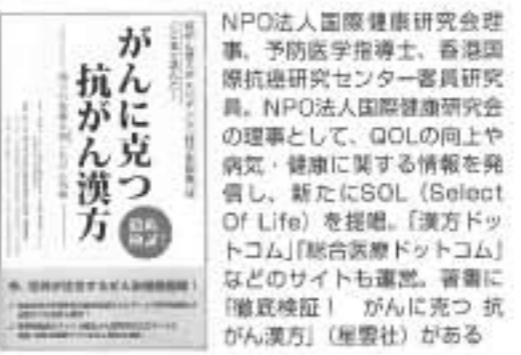
がんは「抗がん剤では治らない」という真実

日本では年間約35万人ががんで亡くなり、将来は2人に1人ががん死するといわれています。そんな日本に對し、がんの死亡率が減少しているのがアメリカです。1985年、がん研究の世界的権威であるアメリカ国立がん研究所（NCI）のデビッド・シトランスキー所長は、「抗がん剤でがんは治せない」と証言。さらに同研究所は、「放射線治療は免疫細胞を減少させるため、抗がん剤より致死率が高い」（「がんの病因学」19

副作用が大幅に軽減し、QOLと治療力が向上

約20年前に中国で誕生し、14種類の生薬を配合したその漢方薬剤は、複合作用によって副作用を緩和、がんを封じ込めます。「体質改善によい」「副作用が少ない」と注目される漢方ですが、臨床データの少なさも指摘されています。その点、現在進化した漢方薬剤（THLIP）は、世界で初めてヒトによる臨床試験（※コラム参照）が行われ、結果は世界の医学誌に掲載。アメリカ国立衛生研究所の公式サイトでも「有効率80%」と掲載されています。注目したいのは、漢方薬剤（THLIP）は、病院の治療

樋口先生のプロフィール



NPO法人国際健康研究会理事、予防医学指導士、香港国際抗腫瘍研究センター客員研究員。NPO法人国際健康研究会の理事として、QOLの向上や病氣・健康に関する情報を発信し、新たにSOL (Select Of Life) を提唱。「漢方ドットコム」「総合医療ドットコム」などのサイトも運営。著書に「徹底検証! がんを克服 抗がん漢方」(星雲社)がある

88年」という報告書を発表しました。ここからアメリカは代替療法の研究を始め、その成果もあってがん死亡率は年々下がりに続いています。

日本でもいろいろな代替療法が行われていますが、がんの主な治療法は、手術と抗がん剤

と併用でき、抗がん剤による副作用を大幅に軽減してがん退治に相乗効果を発揮するところ。抗がん剤による疲労感や下痢、嘔吐、痛み、食欲低下が軽くなれば、食欲が戻って体力が付き、免疫力とQOLが向上して気持ちも前向きになります。

実際、「子宮摘出後の副作用が軽減され、術後の回復が早かった」「前立腺がんから骨髄に転移し、自然死を避けたが、驚異的な回復力で復活した」といった声も多く寄せられています。

この漢方薬剤（THLIP）は20以上の臨床試験を経て、顕著な副作用が確認されず、世界各国に安心供給されています。日本では、日本食品分析センターによる最新の毒性試験もクリアしています。